

平成 19 年 3 月期 第 3 四半期財務・業績の概況（連結） 平成 19 年 2 月 9 日

上場会社名 株式会社コロワイド

（コード番号：7616 東証第一部）

（URL <http://www.colowide.co.jp>）

問合せ先 代表者役職・氏名 代表取締役社長 渡辺順寛

責任者役職・氏名 専務取締役 野尻公平 （TEL：045-274-5970）

1. 四半期財務情報の作成等に係る事項

- ① 会計処理の方法における簡便な方法の採用の有無 : 有
有価証券の時価評価は中間期・期末のみに行っております。
- ② 最近連結会計年度からの会計処理の方法の変更の有無 : 無
- ③ 連結及び持分法の適用範囲の異動の状況：
当該第 3 四半期（平成 18 年 4 月 1 日～平成 18 年 12 月 31 日）に、下表のとおり、連結の適用範囲に異動が生じております。

年月	M&Aの概要
平成 18 年 7 月	当社は、北関東・東北地区を中心にステーキ事業・居酒屋事業をチェーン展開する株式会社宮の普通株式 20,000,000 株を平成 18 年 7 月 14 日付で取得し、株式会社宮は当社の連結子会社となりました。当社の株式会社宮に対する所有議決権割合は 52.39%となっております。なお、みなし取得日を平成 18 年 8 月 31 日（株式会社宮の中間期末）といたしました。
平成 18 年 10 月	当社の連結子会社である株式会社アトムおよび株式会社がんこ炎は、平成 18 年 7 月 28 日開催の各取締役会および平成 18 年 8 月 30 日開催の各臨時株主総会に基づき、平成 18 年 10 月 1 日をもって株式会社アトムを存続会社とする吸収合併を行いました。従って、株式会社がんこ炎は同日をもって消滅しております。 合併後の状況（平成 18 年 12 月 31 日現在） ① 商号 株式会社アトム ② 事業内容 中京・北陸地区を中心とした直営・F C 飲食チェーンの経営 ③ 本店所在地 愛知県名古屋市中区栄 3 丁目 7 番 20 号 ④ 代表者 代表取締役社長 植田 剛史 ⑤ 資本金 2,673 百万円 ⑥ 総資産 16,071 百万円 ⑦ 決算期 3 月 31 日
平成 18 年 12 月	当社は生菓子、焼き菓子、チョコレート（生チョコ他）の製造、販売を行う株式会社シルスマリア（本店所在地 神奈川県逗子市、資本金 15 百万円）の発行済株式総数 400 株の 50%を取得し連結子会社といたしました。

（注 1）当社の連結子会社である株式会社宮およびアムゼ株式会社は、平成 19 年 1 月 22 日開催の各取締役会および平成 19 年 3 月下旬開催予定の各臨時株主総会に基づき、平成 19 年 3 月 31 日をもって株式会社宮を存続会社とし、アムゼ株式会社を消滅会社とする吸収合併を行う予定であります。

（注 2）当社の連結子会社である株式会社コロワイド C K は、コロワイドグループのマーチャンダイジング機能を統括および強化するため、平成 19 年 2 月 1 日付で、株式会社コロワイド MD と商号を変更いたしました。

当社連結子会社 14 社の平成 18 年 12 月 31 日現在の状況は次のとおりです。

会社名	資本金	当社の議決権比率	主要な事業内容
株式会社コロワイド東日本	10 百万円	100.0%	直営飲食店チェーン
株式会社コロワイド西日本	10 百万円	100.0%	直営飲食店チェーンおよび F C 事業の多店舗展開

株式会社コロワイド北海道	10 百万円	100.0%	直営飲食店チェーン
株式会社ダブリューピージャパン	439 百万円	100.0%	直営飲食店チェーン
アムゼ株式会社	400 百万円	100.0%	直営飲食店・カラオケ ハウスおよびビデオレンタル店チェーン
株式会社アド・イン・プラ	10 百万円	100.0%	直営飲食店チェーン
株式会社コロワイドCK (注)	10 百万円	100.0%	各種食料品および製造・加工品等の提供
株式会社アトム	2,673 百万円	52.17%	直営飲食店チェーンおよび F C 事業の多店舗展開
オリンパス・キャピタル・ダイニング・ホールディングス株式会社	255 百万円	100.0%	投資業、有価証券の保有・運用
ワールドピーコム株式会社	75 百万円	95.12%	外食事業向けセルフ・オーダー・トータル・システムの開発・販売、無線通信技術の開発・運用
株式会社宮 (連結子会社 2 社含む)	6,294 百万円	52.39%	直営飲食店チェーンおよび F C 事業の多店舗展開
株式会社シルスマリア	15 百万円	50.0%	生菓子、焼き菓子、チョコレート (生チョコ他) の製造、販売

(注) 株式会社コロワイドCKは平成19年2月1日付で、株式会社コロワイドMDに商号変更いたしました。

2. 平成19年3月期 第3四半期の財務・業績概況 (平成18年4月1日～平成18年12月31日)

(1) 経営成績 (連結) の進捗状況

(注) 百万円未満切捨

	売上高	営業利益	経常利益	四半期 (当期) 純 利 益
	百万円 %	百万円 %	百万円 %	百万円 %
19 年 3 月期第 3 四半期	86,443 (28.2)	1,938 (△35.9)	1,720 (△40.1)	△1,199 (－)
18 年 3 月期第 3 四半期	67,415 (26.8)	3,025 (27.2)	2,873 (48.3)	218 (△50.7)
(参考) 18 年 3 月期	93,064 (30.0)	4,399 (34.4)	3,946 (46.3)	406 (4.0)

	1 株当たり四半期 (当期) 純利益	潜在株式調整後 1 株当たり四半期 (当期) 純利益
	円 銭	円 銭
19 年 3 月期第 3 四半期	△ 21 23	—
18 年 3 月期第 3 四半期	6 93	6 91
(参考) 18 年 3 月期	8 87	8 85

(注) 売上高、営業利益等は、当該第3四半期までの累計値である。

売上高、営業利益等におけるパーセント表示は、対前年同四半期比増減率を示す。

[経営成績 (連結) の進捗状況に関する定性的情報等]

当該第3四半期の日本経済は、米国経済減速のリスクはあるものの、企業の設備投資や輸出を牽引役とした大企業製造業中心の景気の回復基調が続きました。しかし、家計の所得増を通じた個人消費は伸び悩みました。2006年の外食市場は、原材料価格の高騰に加え、過剰店舗の中での新規出店競争が続いております。さらに、昨年10月以降のノロウイルス流行や、飲酒運転・駐車禁止に関する規制強化で、飲食店の営業に影響が出ております。

このような状況の中、当社グループ各事業会社は、それぞれ地域特性を生かした地域密着の経営体制の

構築を目指し、当該地域に合った食材やメニューの見直しに加え、店舗改装、業態の見直し等により既存店の業績向上をめざしましたものの、ノロウイルス流行や飲酒運転問題による影響もあり、連結ベースの当該第3四半期までの累計値において、既存店業績は前年対比で、連結既存店売上高 97.0%、連結既存店客数 96.3%、連結既存店客単価 100.7%と推移しております。

店舗政策につきましては、コロワイド・グループ全体では、当該第3四半期までの累計値では、71 店舗の新規出店、9 店舗の造作譲受、23 店舗の閉鎖を行いました。

以上の店舗政策の結果、当該第3四半期末現在の直営店舗数は、(株)コロワイド東日本 327 店舗、(株)コロワイド西日本 108 店舗、(株)コロワイド北海道 93 店舗、アムゼ(株)53 店舗、(株)ダブリューピーージャパン 6 店舗、(株)アド・イン・プラ 1 店舗、(株)アトム 254 店舗、(株)宮 149 店舗 合計 991 店舗となっております。

地域別では首都圏 430 店舗、東海地区 195 店舗、関西地区 115 店舗、北海道 93 店舗、東北地区 87 店舗、信越・北陸地区 71 店舗合計 991 店舗となっております。

連結業績では、当該第3四半期までの累計値において、連結売上高は 864 億 43 百万円、連結経常利益は 17 億 20 百万円、連結純損失は 11 億 99 百万円となりました。

連結売上高は、連結子会社による新規出店や、M&Aにより新規連結した子会社の売上加算されたため前年同期比 28.2%の増加となりました。

連結経常利益は、中間期における連結子会社(株)がんこ炎の業績が前年に比べ低調であったこと、牛肉・鮮魚を中心とした食材価格の高騰・高止まりによる原価率上昇の影響、およびパート・アルバイトの時給単価の上昇や募集コストの増加等で、前年同期比 40.1%の減少となりました。

連結純損失は、経常利益減少要因に加え、減損損失や閉店および店舗リニューアルによる特別損失の計上もあり 11 億 99 百万円となりました。

(2) 財政状態(連結)の変動状況

(注) 百万円未満切捨

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万	百万円	%	円 銭
19 年 3 月期第 3 四半期	103,063	14,272	13.8	138 96
18 年 3 月期第 3 四半期	90,425	12,024	13.3	479 94
(参考) 18 年 3 月期	85,105	14,926	17.5	281 28

[財政状態(連結)の変動状況に関する定性的情報等]

① 総資産の増加

当社連結子会社の新規出店等に伴う有形固定資産の増加によるもの、M&Aによる店舗その他資産の取得によるものであります。

② 純資産の増加

期間損益につきましては、マイナスとなっておりますが、平成 18 年 3 月 30 日付で第三者割当による第 2 回優先株式 30 億円を発行し、資本金および資本剰余金に夫々 15 億円を繰り入れたことにより、純資産の額は、前第 3 四半期末に比べ 22 億 47 百万円の増加となっております。

[参考]

平成 19 年 3 月期の連結業績予想（平成 18 年 4 月 1 日～平成 19 年 3 月 31 日）

(1) 経営成績（連結）の進捗状況

(注) 百万円未満切捨

	売上高	経常利益	当期純利益
	百万円	百万円	百万円
通 期	117,441	2,566	△796

(参考) 1 株当たり予想当期純利益（通期） △14 円 72 銭

[業績予想に関する定性的情報等]

去る平成 18 年 11 月 2 日付「中間決算短信（連結）」にて公表いたしました平成 19 年 3 月期（平成 18 年 4 月 1 日～平成 19 年 3 月 31 日）の通期連結の業績予想との差異は以下の通りです。

連結（通期）の業績予想数値の修正

(単位：百万円)

	売上高	経常利益	当期純利益
前回発表予想 (A)	119,920	4,110	102
今回修正予想 (B)	117,441	2,566	△796
増減額 (B－A)	△2,479	△1,544	△898
増減率 (%)	△2.1%	△37.6%	—

売上高につきましては、飲酒運転の社会問題化や、昨年 10 月以降のノロウイルス流行といった外食産業にとって厳しい事業環境が続いており、前回発表の売上予想を下回る見込みとなります。

経常利益につきましては、昨年来の輸入再開速度の鈍化に伴う牛肉価格の高止まりや、海外需要の高まりに伴う魚介類の高騰により食材原価に直接的な影響を受けており、売上総利益率が第 3 四半期までの累計値において、計画に対し 0.2%低下しております。また、販売費及び一般管理費につきましては、計画に対し売上高が未達であった事により、固定費比率が上昇したことに加え、パート・アルバイトの時給単価の上昇や募集コストの増加などにより、販売費及び一般管理費率が第 3 四半期までの累計値において計画に対し 1.2%上昇しております。以上の結果、経常利益は前回発表の予想を下回る見込みとなります。

当期純利益につきましては、平成 18 年 10 月 1 日付で行いました連結子会社である(株)アトムと(株)がんこ炎の合併に伴う持分変動差額 131 百万円を含む、特別利益 386 百万円の計上があるものの、経常利益の減少要因を主要因として前回発表の予想を下回り、既に計上しております減損損失や固定資産除却損等の影響もあり、当期純損失となる見込みです。

1. (要約) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円、%)

科 目	当四半期 (平成 19 年 3 月期 第 3 四半期末)	前年同四半期 (平成 18 年 3 月期 第 3 四半期末)	増 減		(参考) 平成 18 年 3 月期
	金 額	金 額	金 額	増減率	金 額
(資産の部)					
I. 流動資産					
1. 現金及び預金	12,430	13,751	△1,320	△9.6	11,595
2. 売掛金	1,526	1,640	△113	△6.9	1,197
3. たな卸資産	3,522	3,658	△135	△3.7	2,829
4. 前払費用	1,798	1,552	245	15.8	1,632
5. その他	2,022	1,662	359	21.6	1,612
流動資産合計	21,300	22,266	△965	△4.3	18,866
II. 固定資産					
1. 有形固定資産	48,232	38,647	9,585	24.8	38,136
2. 無形固定資産					
(1) のれん	7,570	7,396	174	2.4	6,958
(2) その他	468	239	228	95.5	271
無形固定資産合計	8,039	7,635	403	5.3	7,230
3. 投資その他の資産					
(1) 投資有価証券	2,361	1,498	862	57.5	1,284
(2) 敷金保証金	21,117	18,455	2,661	14.4	17,917
(3) その他	1,885	1,853	31	1.7	1,602
投資その他の資産合計	25,363	21,808	3,555	16.3	20,804
固定資産合計	81,635	68,091	13,543	19.9	66,171
III. 繰延資産	127	68	59	87.2	66
資産合計	103,063	90,425	12,637	14.0	85,105
(負債の部)					
I. 流動負債					
1. 買掛金	7,398	6,675	722	10.8	4,877
2. 短期借入債務	29,260	18,471	10,788	58.4	12,782
3. 1 年以内償還社債	1,458	1,592	△134	△8.4	2,188
4. 未払金	8,183	7,435	748	10.1	5,682
5. その他	1,469	1,774	△304	△17.2	2,067
流動負債合計	47,770	35,948	11,821	32.9	27,598
II. 固定負債					
1. 社債	9,315	6,398	2,917	45.6	5,906
2. 転換社債型新株予 約権付社債	1,100	1,100	0	0.0	1,100
3. 長期借入債務	23,870	29,110	△5,239	△18.0	29,699
4. 長期未払金	4,544	4,256	288	6.8	4,118
5. その他	2,191	1,016	1,175	115.7	1,112
固定負債合計	41,021	41,880	△859	△2.1	41,935
負債合計	88,791	77,829	10,961	14.1	69,534
(少数株主持分)					
少数株主持分	-	572	-	-	644
(資本の部)					
1. 資本金	-	3,982	-	-	5,482
2. 資本剰余金	-	5,392	-	-	6,898
3. 利益剰余金	-	2,652	-	-	2,700
4. その他有価証券評価差額金	-	189	-	-	77
5. 自己株式	-	△192	-	-	△232
資本の部合計	-	12,024	-	-	14,926
負債、少数株主持分及 び資本の部合計	-	90,425	-	-	85,105

(純資産の部)					
I. 株主資本					
1. 資本金	5,482	-	-	-	-
2. 資本剰余金	6,898	-	-	-	-
3. 利益剰余金	1,197	-	-	-	-
4. 自己株式	△202	-	-	-	-
株主資本合計	13,375	-	-	-	-
II. 評価・換算差額等					
1. その他有価証券評価差額金	△68	-	-	-	-
評価・換算差額等					
III. 少数株主持分	964	-	-	-	-
純資産合計	14,272	-	-	-	-
負債及び純資産合計	103,063	-	-	-	-

2. (要約) 四半期連結損益計算書

(単位：百万円、%)

科 目	当四半期 (平成 19 年 3 月期 第 3 四半期)	前年同四半期 (平成 18 年 3 月期 第 3 四半期)	増 減		(参考) 平成 18 年 3 月期
	金 額	金 額	金 額	増減率	金 額
I. 売上高	86,443	67,415	19,028	28.2	93,064
II. 売上原価	26,732	19,362	7,370	38.1	27,117
売上総利益	59,711	48,052	11,658	24.3	65,947
III. 販売費及び一般管理費	57,772	45,027	12,744	28.3	61,548
営業利益	1,938	3,025	△1,086	△35.9	4,399
IV. 営業外収益	792	521	271	52.1	663
V. 営業外費用	1,010	673	337	50.1	1,116
経常利益	1,720	2,873	△1,152	△40.1	3,946
VI. 特別利益	386	40	346	866.2	65
VII. 特別損失	2,405	1,701	703	41.3	2,149
税金等調整前四半期純利益又は 税金等調整前四半期純損失	△297	1,211	△1,509	-	1,861
税金費用	854	927	△73	△7.9	1,033
少数株主利益	47	65	△17	△26.9	422
四半期純利益又は四半期純損失	△1,199	218	△1,418	-	406